



シャープ株式会社 葛城事業所

セキュアなBtoB文書交換を Adobe® Acrobat®で実現

シャープ株式会社 葛城事業所

<http://www.sharp.co.jp>

所在地:

奈良県葛城市菫282-1

事業所概要:

奈良県葛城市に位置するシャープ・葛城事業所は、半導体を中心とした多品種の電子部品とソーラーシステム(太陽電池)を製造する一大拠点だ。特に同事業所から生み出される太陽電池は、6年連続で生産量が世界トップという実績を誇っている。

シャープ株式会社は2003年1月、国際標準規格ISO17799-2に準拠した「情報セキュリティ基本方針」「セキュリティポリシー」を定めた。個人情報や社内機密情報に対する情報保護を主な目的としたものである。その後に制定した「シャープ企業行動憲章」にも情報保護に対する取り組みを盛り込み、全社を挙げて「信頼される企業」を目指している。この方針を受けて各事業所が情報保護強化に取り組んでいる。電子部品や業界トップシェアを誇る太陽電池を製造する葛城事業所も機密性の高い製品情報を扱うだけに、情報保護の見直しが迫られた。そこで採用した所内標準ツールが「Adobe® Acrobat®」だった。

Acrobatはセキュリティ機能も備えた電子文書ツール

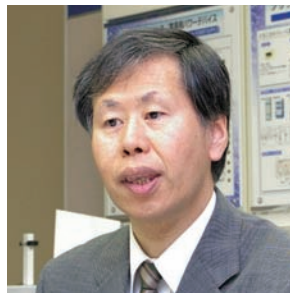
葛城事業所では、以前よりCADで作成した製品設計図などは最高レベルの機密文書として、業務委託先とやり取りする際には暗号化していた。シャープ葛城事業所 IT推進室の森本清己 副参事は「業務委託先と共同利用していたCADデータを暗号化するツールが陳腐化し、標準的なセキュリティ要求を満たせなくなっていました」と振り返る。

折しも、葛城事業所では「所内文書の電子化」を推進し始めていた頃であり、製品企画部門などを中心にAcrobatの導入が進んでいた。調べてみると、Acrobatは同事業所が要求する暗号化機能を持つことが分かった。米国政府も使用する暗号化アルゴリズム「128ビットAES(Advanced Encryption Standard)」に対応していた。「暗号化だけなら他のソフトでも対応できました。また業界で進めるBtoBシステムを導入することも考えましたが、結局Acrobatのセキュリティ機能が使いやすい、社員や取引先にも負担がかからない点を重視しました。文書の電子化でAcrobatの導入が進んでおり、コストを抑えられる点も魅力でした。Acrobatは業界で広く使われており、相手の会社も持っているでしょうからデータ交換には好都合と考えました」(葛城事業所 IT推進室の汐崎廣道係長)。

IT推進室が目じた使いやすいAcrobatのセキュリティ機能とは「eEnvelope(電子封筒)」。現実の封筒を模したテンプレートに、簡単な手順で任意のデータファイルを入れ、セキュリティ設定を施せる。森本副参事は次のように評価する。「eEnvelopeならデータを入れて封をするというリアルな感覚で操作でき、直感的な分かりやすさが魅力です。WordやExcelの文書もPDFに封入でき、一括でセキュリティをかけ一つにまとめて交換できます」

添付ファイル抜き出しを自動化する専用プラグインを導入

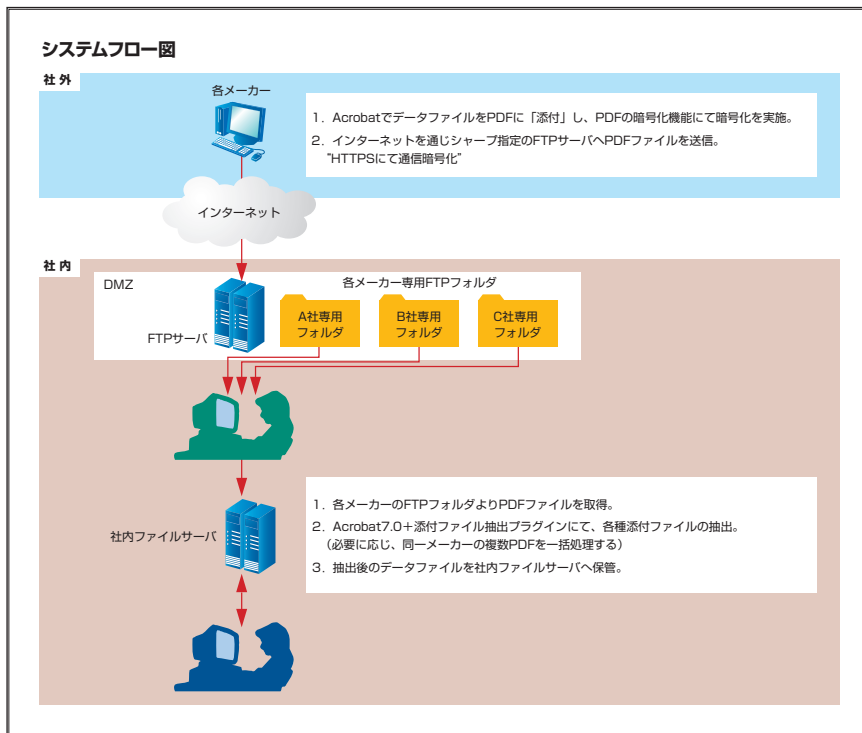
葛城事業所は、業務委託先と機密文書をやり取りする際の新セキュリティ基準を制定している。この基準は、機密データをPDFのeEnvelopeに封入(暗号化)した上で、専用のFTPサイト上で交換するというもの。たとえば業務委託先は、eEnvelopeでセキュリティをかけた電子封筒を各社専用フォルダにアップロード、それを葛城事業所側が開封し、中身のファイルを社内システムに取り込む(次ページ システムフロー図参照)。もちろんFTPサイトには、フォルダ別のアクセス制限がかかっており、PDFファイルの暗号化と合わせて二重のセキュリティがかかっている。「導入当初から問題なく運用できており、社員や取引先に負担をかけず、セキュリティ水準を高めるという目的は達成できています」(森本副参事)。社員や業界委託先に対する特別な操作指導は行っておらず、操作マニュアルを配布しただけ。利用部門にも管理部門にも運用負担がほとんどかからない。「セキュリティレベルを高めると、現場の負担が増えるのが一般的です。だれもが確実に使ってもらえるほど簡単でなければ、セキュリティレベルは上がりません。AcrobatのeEnvelopeはうってつけのソリューションでした」と森本副参事はいう。



シャープ 葛城事業所 IT推進室 副参事
森本清己氏



シャープ 葛城事業所 IT推進室 係長
汐崎廣道氏



葛城事業所では、さらに使い勝手を高めるため、Acrobatのプラグインソフトを開発して利用している。このプラグインソフトは「添付ファイル抽出プラグイン」と呼ばれ、eEnvelopeに封入された各種ファイルを一括で抜き出し、保存できるもの。製品設計にかかわる文書の場合、1つのPDFファイルに大量のファイルを封入することが多い。それらを逐一抜き出し、保存するのは煩雑だ。それをプラグインで自動化することで、Acrobatの操作性をいっそう高めることができる。

標準ツールのAcrobatで文書管理を推進

このように葛城事業所では、外部とのセキュアな文書交換でAdobe PDFとAcrobatが役立っている。一方で、Acrobatの導入を進めた本来の目的である社内文書の電子化も着々と進んでいる。森本副参事は「ビジネスリスクマネジメントの一貫として電子化を進めています。また技術文書を電子化し、情報資産として有効活用することが求められています。基幹系システムに格納されていない非定型文書の全てを、PDFで標準化する検討をしています。電子文書の業界標準フォーマットであるPDFであれば、将来においても可読性を損なうことはないでしょう」と話す。

「3D CADデータも3次元のままPDF化できる「Adobe Acrobat 3D」を使えば、効果的なプレゼン資料が作成できるので、興味を持っています」(汐崎係長)。葛城事業所では、PDFとAcrobatが活躍する場面をさらに増やす考えだ。

Adobe Acrobatの主な利点

- ・業界標準の128ビットAES暗号化技術
- ・セキュリティ機能の使い勝手がよく、ユーザに負担をかけない
- ・各種アプリケーションで作成した文書やデータを1つのPDFファイルに封入することが可能
- ・BtoBで使える標準製品であり、コスト的にも技術的にも導入、運用コストが低い

使用したアドビ製品

- ・ Adobe Acrobat

製品に関する詳細は

www.adobe.co.jp/products/acrobat/ をご覧ください。

お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD: Adobe Advanced Dealer) でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビ システムズホームページ (www.adobe.co.jp) で入手してください。製品の購入に関する詳細はカスタマーインフォメーションセンター (tel.03-5350-0407) へお問い合わせください。